



令和 2 年度 事業報告書

特定非営利活動法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

目次

I. 事業部門

1. 国内のダンスアーティストの育成と創造環境作り —p.2

・コンテンポラリーダンス・プラットフォームを活用した振付家育成事業『ダンスでいこう！！2020』

2. コンテンポラリーダンスに関わる情報の発信 —p.7

・コロナ禍において始まった国などの支援策への対応

I 『オンラインダンスフェスティバルー観賞から体験へー』

II EPAD(緊急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業)

III 文化庁《文化芸術活動の継続支援事業》「事前確認番号」発行受付窓口(文化庁指定統括団体)

3. 文化芸術による被災地の復興支援 —p.10

・三陸国際芸術推進事業 2020

I 三陸国際芸術祭 2020 —————p.10

II 三陸芸能短期留学(オンライン芸能体験事業) ———p.10

III 芸能マッピング事業—————p.11

4. 「すべての人がダンスと出会う」機会を創る、コミュニティダンス —p.13

・「こちかぜ(東風)キッズダンス 7

—東山区発の、ダンスによる子ども育成を通じた地域力創造プログラム 2020—

・コミュニティダンスのすすめ— Community Dance in Japan on web

5. 子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力を育む、創造的なダンス教育の普及 —p.15

・文化庁/令和2年度「文化芸術による子供育成総合事業ーコミュニケーション能力向上事業ー」

NPO 法人提案型

・京都府/令和2年度 文化を未来に伝える次世代育み事業「学校・アート・出会いプロジェクト」

6. コンテンポラリーダンスを用いた、社会的課題への取組 —p.19

・「創造的なダンスを用いた、児童青少年の自己肯定感向上プロジェクト」2020

7. その他、講習・政策提言・アドバイザー等 —p.20

II. 会員部門

1. コンテンポラリーダンスに関わる情報の発信 —p.21

・JCDN 会員サービス等

I. 事業部門

1. 国内のダンスアーティストの育成と創造環境作り

コンテンポラリーダンス・プラットフォームを活用した振付家育成事業『ダンスでいこう！！2020』

（事業主旨）

全国各地にあるコンテンポラリーダンスの拠点を活用し、若手から中堅を対象とした振付家のための人材育成プラットフォームを形成する。各プラットフォームごとに異なるニーズや課題に対し「教授等の機会の提供」「マネジメント能力の向上」「国際性の獲得」「社会性の獲得」「地域内の人材交流」「他分野人材との交流」を主な目的として事業を行い、日本国内のコンテンポラリーダンスの振付家を多方向から育成する。

（実施概要）

2020年度は、全国10のプラットフォーム（以下）による振付家育成プログラムを、7月から3月まで実施。また、各地のプログラムのほかに、キックオフ・ミーティング（7月オンライン）、報告会「KYOTO Meeting」（2021年3月）など、様々な形で育成の未来と課題について話し合う場、プログラムを継続するための場を設けた。

- ① 【札幌プラットフォーム】—運営：北海道コンテンポラリーダンス普及委員会
- ② 【名古屋プラットフォーム】—運営：ダンスハウス黄金 4422
- ③ 【城崎プラットフォーム】—運営：Dance Camp Project
- ④ 【神戸プラットフォーム】—運営：NPO 法人ダンスボックス
- ⑤ 【広島プラットフォーム】—運営：FREE HEARTS
- ⑥ 【札幌/京都クリエイティブパートナー】「建築とコンタクト（京都-札幌）」
—運営：C³/Contact Choreograph Crossing 事務局：（一社）ダンスアンドエンヴァイロメント
- ⑦ 【福岡クリエイティブパートナー】「わたしと身体のゆるやかなダンス革命 イン福岡」
—運営：ボディ・アーツ・ラボラトリー/山崎広太、NPO 法人コデックス/スウェイン佳子
- ⑧ 【創造環境パートナー/ダンスヒストリー】—運営：ダンスヒストリー・スタディーズ
- ⑨ 【創造環境パートナー/ダンスメディア】—運営：一般社団法人ダンス・ニッポン・アソシエイツ
- ⑩ 【公演プラットフォーム】「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 2020」
—若手振付家によるダンス公演&作品を巡るディスカッション—

① 札幌プラットフォーム

【タイトル】Sapporo choreo（サッポロ・コレオ）振付家養成講座

【運営】北海道コンテンポラリーダンス普及委員会（森嶋拓）

【日程】7月～2月 【場所】CONTE-SAPPORO Dance Center（北海道札幌市西区琴似1条4丁目2-15-4F）ほか

【講師】平原慎太郎、川上りえ、櫻井幸絵、山下残、児玉北斗

【内容】創作にあたって何から手をつけたら良いかわからない方には基本知識を。すでに活動を行っている方には一緒に悩んでくれるメンターと、プロモーションに関する全面的なサポートを。ダンスを観るのが好きなだけで、自分が踊るのはちょっと・・・という方にはよりダンスを深く味わう為の視点を。A～Cの3コースを用意。オンラインを活用し、全国の方も参加可能なプログラム。

- ◆Aコース／振付の方法論についてのオンライン講座 計8回
- ◆Bコース／オンライン講座＋グループワーク 計6回
- ◆Cコース / 振付家のトータルコーディネートコース 計13回

【参加者(育成対象者)】 計 28 名

(うち B コース: 玉谷ゆかり、鈴木英理子、鼓代弥生 C コース: 篠崎芽美、牛島有佳子、大西彩瑛)

② 名古屋プラットフォーム

【タイトル】レジデンスアーティスト育成事業 2021 【運営】ダンスハウス黄金 4422 事務局(浅井信好)

【日程・場所】1 月 5 日～24 日 ダンスハウス黄金 4422

【講師】浅井信好(制作講座)、福井孝子(照明講座)、椎名 KANS(音響講座)

【内容】精力的に作品発表を行っていく振付家のために、作品の創作だけでなく、舞台芸術に関わる様々な知識を習得してもらうためのプログラム。2 名のレジデンスアーティストを公募で選出後、20 日間に渡り、ダンスハウス黄金 4422 にて愛知県内のダンサーを起用した作品の滞在製作を行った。

滞在制作期間中に、舞台芸術に関わる様々な知識を習得してもらうための照明講座・音響講座・制作講座(1 講座4 時間)を実施。最後に、ダンスハウス黄金 4422 内の劇場にて 2 日間、各 10 名の観客を入れて成果発表を行った。

【公募選出レジデンスアーティスト】小暮香帆、井田亜彩実

【参加者(レジデンスアーティスト作品の出演者含む)】 計 11 名

③ 城崎プラットフォーム

【タイトル】Dance Camp クリエイション&ダイアログ・ワークショップ 【運営】Dance Camp Project(水野立子)

【日程・場所】1 月 9 日～16 日 城崎国際アートセンター(兵庫県豊岡市城崎町湯島 1062)

【メンター】ディーン・モス、余越保子

【内容】作品を既につくり発表しているパフォーマティブアートの分野(振付家・演出家・映像作家・美術家・パフォーマー・ダンサーなど)を対象に、ソロ、デュオ、3～5 名のグループ編成の若手アーティストが城崎国際アートセンターに滞在し、集中した作品クリエイションを行う。期間中、キャリアのあるメンターが、参加したアーティスト同士にダイアログを促し、作品プロセスを言語化、既存の手法や価値観を問いながら実験と発明を重ね、作品のクリエイションに必要な参加アーティストのコンセプトやアイデアをより拡張させていくことを目的とする。最終日に成果発表を行った。

【参加者(育成対象者)】 計 11 名

上本竜平、阿部真理亜、中村優希、杉本奈月、西井裕美、松浦みる、遠藤純一郎、鶴家一仁、内藤治水、長沼航、モテギミユ

④ 神戸プラットフォーム

【タイトル】DANCE ARTIST VIEW2020「セルフカルチャート企画」 【運営】NPO 法人 DANCE BOX(文)

【日程】7 月 21 日～3 月 15 日 【場所】ArtTheater dB KOBE、オンライン

【内容】育成対象となる新進の振付家等が、創作活動をしていく上で自身に不足していること(創作技術や、様々なスキル、マネジメント力等)を客観的に捉え、現在のダンスシーンも鑑みて、それらに最も有効な自分自身のための育成プログラムを立ち上げる。育成対象者は、ダンサーやテクニカルスタッフ、制作者やアドバイザーなどとの協働も含めた多角的な実践演習を行う。

■ダンス井戸端会議

WEB サイト上に「ダンスを外から見つめる・語る」場を作成。トークイベントを 5 回実施し、レポートを執筆し、今後につながるダンスを言葉で届ける媒体をつくった。

■上野愛実、内田結花、中西ちさと、中間アヤカ「コンポジション実験クラブ(CEC)」

＜創作＞ではない＜振付の土台＞のスキルアップと、振付家同士の対話の場を継続的に考える場を持たた。

■Alain sinandja「How to make an artistic folder」

活動するために必須の＜artistic folder＞づくりを入口に、新たなチームでのクリエイションを通じてプロジェクトマネ

ジメントを学んだ。

■庄波希(HixTO)「空間と身体の関係性の研究」

劇場空間をフルに活かし、美術・照明・モノ・衣装と身体の関係を探り、実験を重ね演出のスキルを高めた。

【参加者(育成対象者)】計 20 名

⑤ 広島プラットフォーム

【タイトル】ダンスアートプロジェクト！！ 【運営】FREE HEARTS(島村陽子)

【日程・会場】2月9日～14日 安芸区民文化センター(広島県広島市安芸区船越南3-2-16)

【講師】近藤良平

【内容】オリジナリティー溢れる作品づくりの機会(場)を提供することにより、今後の若手振付家・ダンサーの創作意欲を高めることを目的とし、ダンスを「創る」面白さを伝える6日間のプログラム。昨年に続き、第一線で活躍する振付家の近藤良平氏を講師に招き、ワークショップ・レクチャーを通じて、創作プロセスを学ぶ。受講者は講師より課題を与えられ、各自創作に挑み、最終日には公開による成果発表(ショーイング)、作品解説も含んだアフタートークを実施した。

【参加者(育成対象者)】計 10 名

⑥ 札幌／京都クリエイティブパートナー

【タイトル】建築とコンタクト(京都-札幌)

【運営】C3/Contact Choreograph Crossing 制作:一般社団法人ダンスアンドエンヴァイロメント(坂本・森)

【日程】10月9日—11月23日 【場所】京都市北いきいき市民活動センター 町家ホテル YANAGI、ほか

【講師】坂本公成+森裕子(Monochrome Circus)、三野貞佳(アリアナ建築設計事務所)

【内容】-建築と出会うダンス- コンタクト・インプロヴィゼーション(以下 CI)は身体と身体との対話のダンスであり、個々の振付家の言語を豊かにすると同時に、家屋や建築など「空間」を理解し利用して行くのにも役立つメソッドである。この事業では広義の意味で CI を捉えて、振付家の空間への理解を促すと同時に、独自の言語を発展させる事を目的としている。京都では古民家をリノベーションした和洋折衷建築「町家ホテル YANAGI」を会場に、札幌では廃校になった校舎を活用した「あけぼのアート&コミュニティセンター」の建築を対象にワークショップ&クリエイション、最終ショーイングや動画の撮影を行った。

【入場者・参加者(育成対象者)】計 13 名

⑦ 福岡クリエイティブパートナー

【タイトル】「わたしと身体のゆるやかなダンス革命 イン福岡」

【運営】山崎広太、NPO 法人コデックス(スウェイン佳子)

【日程・場所】1月30日～2月9日 オンライン <https://kotaworkshop.jcdn.org/>

※緊急事態宣言により、オンラインでのワークショップに切り替え、実施した。

【講師】山崎広太

【内容】ダンスの持つ可能性を探り、日常とダンスとパブリックスペースを有機的にかつ新しい視点で結びつけ、ダンスに向けて新しいエネルギーを育成対象者とともに生み出すというのがこのワークショップの概要である。具体的には、参加者は、ワークショップ開始前から、準備された特設サイトで講師の山崎広太からのメッセージや『綴る言葉』を読むことができ、どのように作品を創っていくかを考える時間が与えられた。そして、ワークショップ期間中には、毎回2時間の ZOOM レクチャーで説明や紹介された多様な動き、振付の方法などをそれぞれの居る空間で実験したり、見せ合ったりした。ZOOM レクチャー外の時間には、講師の指示や参加者間でのインストラクションからインスパイヤーされた言葉や詩、写真や動画などが創られ、活発にサイトに投稿され、そこからまた新たなクリエイションが生

まれた。ワークショップ最終日には、講師と参加者全員の話し合いで、まずは3月9日までこのクリエイション作業を継続し、できれば作品にまでしたいという結論となった。

【入場者・参加者(育成対象者)】 計8名

岩下愛、宮原一枝、福田沙織、浅沼圭、小山柚香、岩永美樹、まさきち、内田正信

⑧ 創造環境パートナー／ダンスヒストリー

【タイトル】ダンサー・振付家・制作者に「役に立つ」バレエ・ダンス史」広島編・zoom 編

【運営】ダンスヒストリー・スタディーズ

【日程・場所】広島編 2月11日、zoom 編 3月6日 広島安芸区民文化センター&オンライン

【講師】芳賀直子

【内容】バレエ、ダンスを実際に踊られている方が歴史に触れる機会は極めて限られている現状。そうした中でバレエ、ダンスの歴史を知ることはクリエイション、教育、自身の活動の何らかの助けになるはずである。その種まき作業を始めたいと思う。今年は昨年を反映して、より実践的な「役に立つ」ヒストリー・スタディーズを目指す。他の会場の企画と連動し、オーダーメイド的講座の開催をする。また、質疑応答の時間を十分にとり、それぞれの疑問にたっぷり答えられる講座とする。

振付の歴史を知り、今の自分のダンスがどのようなダンスの歴史の中に存在しているのか、歴史の中で俯瞰して自分のダンスを見ることで、いま自分が何を創り出そうとしているのかを考えるための講座として開催。

【参加者(育成対象者)】 計21名

⑨ 創造環境パートナー／ダンスメディア

【タイトル】「ダンスを撮る！」第4回ダンス映像撮影ワークショップ

【運営】一般社団法人ダンス・ニッポン・アソシエイツ

【日程・場所】10月1日～10月18日 計5日間 オンライン

【講師】吉開菜央

【内容】近年、映像を撮影することが日常的になった。しかし日本では「ダンスフィルム」はいまだ一つのカテゴリーになっていない。ダンスを表現することの大きな転換期である今だからこそ、劇場で公演することとは違う観点でダンスを表現し発信することで、ダンサー、振付家の新たな活動となるベースを育成する。今回は参加対象者をダンサー・振付家に絞り、「 」と戯れるをキーワードにダンス映像を撮影することを通して「ダンスとは？」をより深く考察する機会をつくった。

【参加者(育成対象者)】 計5名

⑩ 公演プラットフォーム

【タイトル】『KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 2020—若手振付家によるダンス公演&作品を巡るディスカッション—』

【運営】京都コレオグラフィーアワード実行委員会 事務局：JCDN、(一社)ダンスアンドエンヴァイロメント

【共催】京都芸術センター Co-program カテゴリーD 採択企画/会場・機材提供、広報協力

【日程・場所】3月11日(木)17:00- 3月12日(金)15:00-

【内容】振付家を目指すアーティストの次なる活動へのステップとなることを目的に『KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD2020』を創設。55組の応募の中から、書類選考にて6組を選出し、京都芸術センターで2日間に分けて上演した。1日3組の上演後に、観客と共に作品を巡るディスカッションを行い、2日目の夕方に各賞の授与式を行った。

[リアルタイム配信&観客投票について]

上演をリアルタイムで配信(有料)し、観客投票にて観客賞を決定するほか、公演入場料収入・オンライン視聴による

全収益(リアルタイムで投票された方のみ)を、観客の投票数に応じて出演団体に分配する仕組みをとった。

※観客投票は、各日ごとに行った。

【選出振付家・作品】(上演順) ※各賞の結果は、各作家名の隣に記す。※香港賞は該当なし

- 1、長谷川寧／富士山アネット(東京)「Virtual Society」
- 2、小野彩加・中澤陽(東京)「バランス」……ベストダンサー賞受賞:荒木知佳
- 3、松木萌(京都)「Tartarus」 KCA 奨励賞受賞
- 4、横山彰乃／lal banshees(東京)「海底に雪」……KCA 奨励賞受賞
- 5、中根千枝・内田結花(大阪)「移動する暮らし」
- 6、下島礼紗／ケダゴロ(東京)「sky」……KCA 京都賞/観客賞 受賞

【参加者(育成対象者)】 選出振付家 6名/ダンサー、演出助手など 15名 計 21名

⑨ 全体の事業 (運営:NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク)

1) キックオフ・ミーティング

【実施日】7月21日 13:00-16:00 zoomによるオンライン開催(非公開)

【内容】事業全体の開始前に各プラットフォーム代表者による説明会と“振付家・ダンスアーティストが育つための環境をいかに作っていくか”をテーマにしたダンスミーティングを開催。

※昨年度は公開にて行ったが、今年はコロナウィルスの影響を受けてオンラインで実施するため、非公開で行った。

2) 各地の視察(事務局及び各プラットフォーム運営団体)・オブザーバーの設置

事務局および各地の運営団体から、他の地域の視察を行うことでピアレビュー(同業他者による評価)の参考とするほか、横のつながりを深め、運営団体同士のネットワーク作りに活かすことを目指している。(※2020年度はコロナ禍の影響により実施せず。)

また、ダンスに精通し、アーティストの育成に対して見識のある2名程度の専門家に、公演プラットフォームのアーティスト/作品を選出いただくほか、公演後に作家及び当事業に対するフィードバックをいただくこととした。

【オブザーバー ※敬称略】

加藤種男(クリエイティブ・ディレクター)、林慶一(d倉庫)、萩谷早枝子(ST スポット)

3) 「KYOTO Meeting」(報告会)

※公演プラットフォーム「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD」と同時開催

【場所】京都芸術センター フリースペース(京都府京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2)

【実施日】[報告会] 3月11日(木)13:00-16:00

[ミーティング] 3月12日(金)11:00-13:00

【内容】「ダンスでいこう!!」2020年度の総まとめとして行った報告会。9団体が写真や映像とともに事業報告を行い、翌日はミーティングを『コロナの時代にダンスアーティストはどうサバイバルしていくのか、そして、ダンスはどう変わっていくのか?』と題して、VR作品の紹介やこの時期始めたことなど話し合った。

【共催】京都芸術センター Co-program カテゴリーD 採択企画/会場・機材提供、広報協力

【参加者数】 Kyoto Meeting 全体の参加者(入場者)数:計 37名

■担当:佐東、神前、榊原、松岡

■文化庁委託事業「令和2年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

■全体予算:1,970万円

コロナ禍において始まった国などの支援策への対応

2020 年 3 月に全国的に広がったコロナ禍によって、ダンスアーティストにとっては、公演やワークショップなどの活動の中止・延期を余儀なくされた。このコロナ禍がいつまで続くのかわからないまま、世界的にコロナに振り回された 1 年間であった。

JCDN では、2020 年 4 月 26 日より、JCDN 会員(約 120 名)を中心としたダンス関係者約 200 名登録のメーリングリスト「JCDN ダンスサバイブ」を立ち上げた。コロナ禍の新しい助成金・補助金の情報、それぞれが現在何を考えているか、どうしているかなどの近況報告、オンラインを利用したワークショップの方法などを、情報交換する場として機能した。5 月 16 日からは、週一の「ダンスサバイブ ZOOM ミーティング」を始め、全国からの参加者が、近況などを語り合った。ZOOM ミーティングは、7 月 25 日まで、10 回にわたり行った。

この ML や ZOOM ミーティングは、参加者にとって、コロナ禍の中での励ましになったと言っていた。企画した JCDN としても、久しぶりの方々にお会い出来て、通常よりもいろいろな人に会えた喜びがあった。この ML から、のちのオンラインダンスフェスティバルの発想が生まれ、VR オンラインダンスフェスティバル、アーカイブへと繋がっていく。

市町村、都道府県、国による文化・舞台関係者への支援策も数多く生まれた。JCDN では、文化庁「文化芸術収益力強化事業」の 2 つの枠に申請し、採択された。ひとつが「VR オンラインダンスフェスティバル」であり、もうひとつが日本の舞台芸術全般を対象としたアーカイブ事業「EPAD」である。両方ともオンラインを活用したものである。

コロナによって様々な活動は制限されたが、まだ他の分野に比べるとコンテンポラリーダンス分野は、規模が小さく、キャンセルなどにより莫大な借金を背負うなどの事態は見られなかったように思う。対面の活動は自粛されたが、一方オンラインによるワークショップや公演は増え、新しい観客や参加者の拡大に繋がるように思えた。ZOOM によるミーティングが一般化し、移動しない代わりに全国の方々とのコミュニケーションが、より広く図れるようになった。

2020 年 7 月に始まった文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」では、4 回目の公募から、JCDN がコンテンポラリーダンス関係者に対する統括団体と認められ、フリーランスのアーティストやダンサーなどの手続きを軽減するための「＜事前確認番号＞の発行窓口」となり、101 件の番号を発行した。

誰もが経験をしたことのないコロナという非常事態において、コンテンポラリーダンスのネットワーク組織として、一定の役割を果たせたのではないかと考えています。

I 『オンラインダンスフェスティバルー観賞から体験へー』

～VR 技術とオンライン配信システムを活用したコンテンポラリーダンスの新しい観賞スタイルの創造事業～

360 度 VR 観賞専用撮影した、異なるコンセプトのオリジナルダンス 4 作品と 1 モデル事業を映像コンテンツ化して、VR オンラインダンスフェスと銘打ち有料オンライン配信する。観賞者は動画配信プラットフォームで課金決済してオンライン VR 視聴ができる。先着 300 名様まで、JCDN よりスマホ用組み立て式 VR ゴーグルを送付する(ヘッドセット料金と送付料金は課金決済に含まれる)。

制作・配信した作品は下記の通り

- ①DaBY コレクティブダンスプロジェクト「never thought it would」(横浜)
- ②ANTIBODIES Collective 新作公演「ION WAVE」(京都)
- ③Dance House 黄金 4422 「Peepshow アパートメント編～アーティストの素顔を覗き見る～」(名古屋)
- ④新人 H ソケリッサ！「鉄骨鳥譚 Steel-framed birds」(東京、神奈川)
- ⑤モデル事業「ダンスアーティストの移住定住百科:Lata Tomoko Tanabe(新潟)、鈴木ユキオ(山梨)、谷よう子(奄美大島・鹿児島)、コンタクトインプロビゼーショングループ Cico(鹿児島)

<この事業を通しての感想>

今回独自の映像配信プラットフォーム「Contemporary Dance ON AIR」が開設できたことは、今後に向けて大きなことであった。コンテンポラリーダンス作品は、各地で行われているが、公演日数も限られ、多くの人々の目に触れることが難しい。その為、なかなか広がっていかないというジレンマを抱えている。しかし今後オンラインでのライブ配信や過去の作品の配信などが増えてきて、より多くの人々の目に触れることが出来るようになれば、認知度も上がってくるであろう。それが一般的になれば、全国どこで公演を行ったとしても、その公演を観ることが出来るようになるであろう。そしてこの事業が、文化芸術の収益力を強化するためのものであると銘打たれているように、配信によって、少しでもアーティストの収益になる可能性が生まれてくる。

一方 VR 撮影はカメラ 1 台で、カメラマンも必要なく 360 度の映像が撮影配信できる。このことは、アーティストにとって新しい大きな可能性であると思えた。VR ゴーグルをつけないといけないハードルはあるけれど、逆に VR ゴーグルをつけることによって、自分の為だけにこのダンスを踊ってくれているような不思議な感覚が生まれた。この体験は、新しいダンスの楽しみ方として定着していけたらと考えている。

■アーティストへお渡しできた額: 6, 278, 400円(撮影費を含む)

■令和 2 年度文化庁「文化芸術収益力強化事業」

■全体予算: 9, 996, 400円(サイト制作費・カメラレンタル費・制作費を含む)

Ⅱ EPAD(緊急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業)

NPO 法人魁文舎との共同事業として、1990 年代、2000 年台の日本のコンテンポラリーダンス作品の収集を行う。ほとんどの作品の配信を希望するが外国曲の使用などの為、日程的な問題で原盤権を得ることが困難と判断し、JCDN が収集した 89 作品の内、19 作品が配信可能となり、70 作品は早稲田演劇博物館の中の「ジャパン・デジタル・シアター・アーカイブ(JDTA)へ収納され、博物館のブースで視聴することが出来ます。(要予約)配信可能作品 19 作品は、それぞれのアーティストが、配信サイトを選ぶことが出来る形で、そのうち 14 本を JCDN が制作する配信サイトでの配信を希望していただき、現在準備中です。

JCDN が収集した作品リストは、報告書の最後のページに資料として添付します。

■アーカイブのみの作品 70作品本／配信可能作品数 19作品 (全 29 団体)

■アーティストへ直接お渡しできた総額: 13, 005, 000円

■担当: 佐東 ■NPO 法人魁文舎との共同事業

■令和 2 年度文化庁「文化芸術収益力強化事業」

■全体予算: 17, 905, 580円(翻訳、収集・制作協力費、サイト制作費を含む)

Ⅲ 文化庁《文化芸術活動の継続支援事業》〈事前確認番号〉 発行受付窓口(文化庁指定統括団体)

コンテンポラリーダンスに関わる実演家・技術スタッフ等フリーランスの〈事前確認番号〉発行の受付窓口開設について

NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(以下 JCDN)は、令和2年度 文化芸術活動の継続支援事業の補助の対象となる条件の事前確認を、コンテンポラリーダンスに関わるフリーランス(個人事業者)のダンサー・パフォーマー・舞踏家・音楽家・美術家・映像作家等の実演家、振付家・演出家、技術スタッフ、研究者・評論家・写真家・映像カメラマン・制作者・プロデューサー等のプロの舞台芸術関係者を対象に行い、確認が取れ次第確認番号を発行しました。

申込み受付期間:11 月 19 日(木)～12 月 9 日(水)

* 文化庁の申請受付期間は、11 月 25 日(水)～12 月 11 日(金)

『文化庁継続支援事業に関して、コンテンポラリーダンス関係者向けの Zoom セミナー』

11 月 21 日(土)21:00～22:40

内容及び話し手(敬称略):

- 1.『本事業の概要について』塚口麻里子(ON-PAM 舞台芸術制作者オープンネットワーク)(約 30 分)
- 2.『本事業の申請経験から』山口佳子(NPO 法人アルファルファ 代表理事)(約 20 分)
- 3.『本事業の申請経験から』奥野将徳(ペーハー代表、企画・制作)(約 20 分)
- 4.『JCDN の〈事前確認番号〉発行に関して』清水幸代(LANDSCAPE 代表)(約 10 分)
5. Q&A(約 20 分) 進行:佐東範一(NPO 法人 JCDN)

■事前確認番号の依頼件数:107 件

■承認件数:101 件/不承認件数:6 件

他、JCDN としてサバイバルするために、下記の申請を行った。

- ①持続化給付金(2, 000, 000円)
- ②家賃支援給付金(439, 998円)
- ③文化庁「継続支援事業」(1, 477, 000円)

■担当:佐東 ■受付業務委託:清水幸代

■予算:264,000 円

三陸国際芸術推進事業 2020

2020 年度は、三陸国際芸術祭が東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会『東京 2020 NIPPON フェスティバル 共催プログラム』に認定され、夏に開催を予定し準備を行ってきた。しかし新型コロナウイルスのために、東京オリンピックが延期となり、三陸各地のお祭りも中止となり、三陸国際芸術祭も延期となった。一方、三陸芸能短期留学事業も当初は前年度と同様にアーティストが三陸に滞在してのアーティスト・イン・レジデンスを予定していたが、コロナ感染防止のために、急遽オンラインでの実施となった。オンラインでの実施は、どこまで受講者に芸能の良さが伝わるか心配されたが、実際に行ってみると、受講者も海外そして全国からの参加者があり、芸能団体、受講者とも大変満足できるものだった。三陸芸能マッピング事業も、コロナにあまり影響されることなく、次のステップに向かうことが出来た。同時に、三陸国際芸術推進委員会のウェブサイトを作成公開した。

三陸国際芸術推進委員会サイト <https://sanrikuarts.com/>

I 三陸国際芸術祭 2020

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会『東京 2020 NIPPON フェスティバル 共催プログラム』として、8-9 月に計画していたが、コロナ感染拡大防止の為、東京オリンピック 2020 が延期となり、三陸国際芸術祭も延期を決めた。

II 三陸芸能短期留学事業(オンライン芸能体験)

(1) 概要

三陸国際芸術推進事業 2020 アーティスト・イン・レジデンス 三陸芸能短期留学 | オンライン芸能体験を、2020 年 11 月 21 日(土)~11 月 29 日(日)まで各地にて実施しました。延べ 33 名のアーティストが、6 芸能団体のオンライン芸能体験を受講されました。受講された中には、国内だけではなく、オーストラリアやマカオから参加された方もいらっしゃいました。そしてなにより、虎舞・さんさ・獅子躍・剣舞・駒踊り・えんぶりと多彩な芸能を習うことができましたこと、コロナ禍でも開催ができましたことは、今後の三陸の魅力発信に繋がる大きな可能性を感じることができました。

(2) 団体の選考について

本年は、三陸国際芸術推進委員会の委員でもある市町村や各地のディレクターにお声がけして、芸能団体を推薦していただきました。各地域の個性や風土を反映し、北から、えんぶり、駒踊り、さんさ、虎舞、獅子躍、剣舞と、衣装の色彩も芸能の内容も多種多様で、受講者が期待感を抱くことができる郷土芸能の団体が揃いました。

(3) スケジュール、および、芸能団体 <受講時間 150~180 分>

- ① 大槌町虎舞協議会 岩手県上閉伊郡大槌町 11 月 21 日(土)19 時~(2時間 15 分) 受講者数 5 名
- ② 津軽石さんさ 岩手県宮古市 11 月 22 日(日)14 時~(2時間 45 分) 受講者数 5 名
- ③ 金津流浦浜獅子躍 岩手県大船渡市 11 月 23 日(祝)14 時~(2時間 45 分) 受講者数 5 名
- ④ 田束念仏鎧剣舞 岩手県陸前高田市 11 月 27 日(金)19 時~(2時間 25 分) 受講者数 7 名
- ⑤ 赤保内駒踊り 青森県三戸郡階上町 11 月 29 日(日)9 時~(2時間 20 分) 受講者数 3 名
- ⑥ 十一日町えんぶり組 青森県八戸市 11 月 29 日(日)14 時 30 分~(2時間 40 分) 受講者数 8 名

* 参加者は、前年度のように公募。選考はせずに、早いもの順とした。

(4)総括

COVID-19（新型コロナ ウイルス）感染拡大により本年の A.I.R.は、オンラインでの開催に決定しました。海外の応募者もあり、汎用性のある Zoom 会議システムを利用し開催しました。芸能の呼吸や身体の使い方がアーティストたちに伝わるかが不安でしたが、実際に行ってみると、細かなところまで伝わったように思います。

オンライン開催の利点をあげるとすれば、世界中の方々が参加できるということです。周知の通り、三陸沿岸は、交通の便も悪く、八戸から陸前高田に車で移動するのも、4 時間程かかってしまいます。オンラインでは、実際に来訪した場合には、困難な広域の芸能を容易に学ぶことができ、アーティストたちも気軽に参加できたと思います。また、参加数を 8 名程度に絞ることで、画面越しで一人一人に丁寧に接することができたのも、今回の収穫と考えております。

A.I.R.事業を永続的におこなっていくことは、宿泊設備・クリエーションの場づくり・収益化も含め簡単ではないと感じていますが、世界の人々が学べ、三陸の魅力も発信できるオンライン体験は、今後、精度を上げながら、実施していくべきだと考えております。

A.I.R.ディレクター(大船渡市) みんなのしるし 前川十之朗

Ⅲ 三陸芸能マッピング事業

三陸国際芸術推進委員会 HP／三陸芸能マッピングページ／三陸芸能カレンダー】

<https://sanrikuarts.com/mapping/>

(1)目的:東北の芸能に対するアクセス回路を世界に開き、芸能の魅力と芸能へのアクセス

(鑑賞)方法をわかりやすく発信することで、芸能を通じた東北と世界の交流機会
(交流人口)の増加につなげる。

(2)事業概要:昨年度作成した芸能マッピングのサイトをより充実させ、わかりやすい構成とし、アクセス数を増やすためのシコンテンツ制作を行った。また一部英語化を実施し、海外からのアクセス増加への準備を行った。マップは過年度作成した Google MAP を活用した。

(3)実施内容

(ア)【芸能の「地域」「内容」を一覧する】

芸能マップ HP の既存リストの整理、及び HP への反映

- ① 昨年度作成した芸能マップの追記修正を各市町村に依頼し、芸能マップの下地となるリストの更新を行った。
- ② 既存のリストの情報を整理し、以下の情報を見やすく HP 上に展開した。
- ③ また、団体名等基礎情報をリスト中で日英併記とし、過去参加団体については、プロフィールも英語化し、表示した。

(イ)【芸能の「日付」を知る】

芸能マップ HP へのカレンダーの追加

- ③ HP に、芸能カレンダーを追加し、いつ、どこで、どのような芸能を体験・鑑賞することができるかカレンダー上でわかるようにした。
- ④ 2020 年度実施の各地の芸能活動について、各自治体から情報を収集し、カレンダーに掲載した。

(ウ)【芸能の「場所」「公開情報」「内容」を知る】

芸能マップ内の個票への英文併記

- ⑤ HP 上の芸能マップの個票の日本語に続き、英語での解説を追記した
- ⑥ 日本語の個票、英語の個票それぞれを作成することも検討したが、今年度は過去参加団体の個票のみ英語化しているため、今年度は個票中への併記を行う。

⑦ 英語での記載もある旨わかるように、英語併記されている個票上列に「English follows Japanese」の記載を追加した。

(エ)【芸能の「歴史」を知る】

芸能団体の歴史を聞き取り、物語を紡ぐ

三陸芸能コラム『三陸芸能聞き書き人』スタート

- ① 芸能団体にインタビューし、テキストと、動画や写真を介して、より詳細な団体の過去、現在、未来を知るコンテンツを作成する
- ② 比較的固定されがちな三陸国際芸術推進委員会のページに、定期的に更新されるページを作り、アクセス機会を向上させ、「三陸芸能」の検索上位にサイトを持つていくことも目的とした。
- ③ 当該ページは、三陸国際芸術推進委員会のトップページにバナーを貼り、誰でも記事の更新がしやすいように記事は「note」で作成するようにした。

(4)総括

昨年度末より世界的に蔓延した新型コロナウイルスの感染拡大の状況を受け、今年度は様々な課題に直面する一年となった。本事業の主な対象地域である岩手県沿岸部は、当初感染者の数がゼロの状態が続き、結果、沿岸部のどの市町村も域外からの来訪者の受け入れがし難い状況となった。域内においても地域を跨いだ移動は制限される中、世界に向けた発信を行い、芸能を通じた東北と世界の交流機会拡大を目指す本取り組みは一時中断する他選択肢はなく、各地で予定されている芸能を取り巻く年中行事もことごとく中止となり、新たな企画の予定も立てられない一年であった。その状況は、現在も続いている。特に、高齢者の多い芸能の世界において、感染した際のリスクが高い当事者も見守る周辺の若手も、それぞれを慮るが故に芸能を披露する機会を設けることに対して非常に消極的であった。その間、練習ができずに結束力も低下し、離れていく若者がいるという話も聞いた。

芸能マッピング事業においても、連携する各市町村へのヒアリングが憚られ、また、予定されていた芸能行事の中止で、せっかく更新したカレンダーにも「中止」の文字が並ぶ結果となり、実際にどの程度マッピング事業の取り組みが効果を得られているかの把握もし難い状況にあった。粛々と作業を進め、次年度以降、コロナ禍が収束した際に、国内外に向けた発信の準備ができているよう、コンテンツの充足を図る一年となった。

マッピングディレクター 相澤久美

〈ディレクター〉小岩秀太郎((公社)全日本郷土芸能協会)、相澤久美(NPO 法人震災リゲイン)、〈アシスタントディレクター〉坪井奈穂美((一社)三陸コクリ)、〈地図製作・情報整備担当〉地現葉子((一社)silent voice)

三陸国際芸術推進事業 2020／主催：三陸国際芸術推進委員会／事務局：NPO 法人 JCDN

(岩手事務所) 岩手県大船渡市大船渡町字台 16-1

Ⅳ 第 42 回 サントリー地域文化賞受賞

三陸国際芸術祭が、第 42 回サントリー地域文化賞を受賞しました。コロナの影響で受賞式は延期となりました

受賞理由：アジアの芸能団体や現代芸術のアーティストとの交流を通じて、郷土の宝である芸能の魅力を国内外に発信するとともに、震災からの復興を推し進め、地域の活性化に貢献した点が高く評価された。

■担当：佐東

■芸能マッピング、芸能短期留学：文化庁令和 2 年戦略的芸術文化創造推進事業

■全体予算：920 万円

4.「すべての人がダンスと出会う」機会を創る、コミュニティダンス

こちかぜ(東風)キッズダンス 7

—東山区発の、ダンスによる子ども育成を通じた地域力創造プログラム 2020—

2014 年 6 月、京都市東山区・東山いきいき市民活動センターを拠点にスタートした、周辺地域(東山三条)の子どもたちとのコミュニティダンス・プロジェクト。継続 7 年目を迎える。今年も全てのメインプログラムを公募制にして、集まった子どもたちと三条学童保育所の子どもたちが一緒に、計 14 回の活動を行った。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、思いがけず、当初の予定を大きく変更して実施する事になった。まず、メインプログラムは、4 月から翌 2 月まで年間を通して活動予定のところ、4-5 月の春編を中止し、9 月から 1 月に期間を縮めて行った。また、アウトリーチプログラムは活動先に赴くことができず中止した。内容も、メインプログラムのひとつで毎年秋に行ってきた地域のお祭り「まちづくりフェスタ」での発表がなくなり、オンライン上で実施される京都市の子どものお祭りに参加する事になり、ダンスムービーの製作に変更。冬編は、計 4 回のうち後半が緊急事態宣言下になったものの、これまで通りワークショップの場を 4 回設けて、公募の初参加者を広く募り、4 回ともにダンスと美術のコラボワークショップにチャレンジした。

このようにコロナの状況に応じて、プログラムを変更する事となったが、結果的に、子供たちの新たな側面を発見できる、たいへん充実した 1 年となった。また、7 年間の継続の成果を確かに感じられる 1 年でもあった。

大きなトピックとしては、6 年間活動に参加してくれた 3 名が 6 年生になり、学童保育所を卒業する記念の年となったこと。この 3 名には、独自報告書の座談会に 2 年続けて参加していただいた。うち 2 名は中学生になってもダンスを続けるとの事。彼らが少しずつ大人になる様子も見守っていきたい。

<事業内容>

【メインプログラム(公募ワークショップ)】

期間:[秋編]『ダンス&美術(+映像撮影)ワークショップ』(計 11 回) 9/3~10/31

[冬編]『ダンスと美術のスペシャルワークショップ!』(計 4 回) 12/12~1/30

ワークショップ会場:京都市東山いきいき市民活動センター 多目的ホール他

対象:京都市三条学童保育所の小学生(1 年生~4 年生)、近所の子どもたち

公募参加者:4 歳から小学 6 年生(経験問わず、だれでも OK!) 延べ 253 人

成果映像:

秋編ダンスムービー「ぶっとびロケダンス! ~外でも中でもこちかぜシャウト!!~」

<https://youtu.be/jkmm7Tl6iN4>

【アウトリーチ】中止

【PHOTO DOCUMENT 製作】別添の通り、写真で伝える記録集を製作

©2020 プロジェクトメンバー

[ワークショップナビゲート・作・演出] セレノグラフィカ(隅地茉歩・阿比留修一)

[美術・衣裳ワークショップナビゲート・アシスタント] 出川晋

[サポート・アシスタント] 千代その子、高木喜久恵、米澤百奈 [アシスタント] 室田敬介・佐藤野乃子

[写真記録] 草本利枝 [制作協力] 岡本卓也、蔵田葵唯(京都市東山いきいき市民活動センター)

[企画・制作] 神前沙織(JCDN)

[主催] NPO 法人 ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)

[共催] 有限責任事業組合まちとしごと総合研究所(京都市東山いきいき市民活動センター 指定管理者)

[特別協力] 京都市三条学童保育所 岡崎先生、西本先生、野口先生、橋本先生、篠原先生

■担当:神前

■令和 2 年度京都府地域交響プロジェクト交付金 令和 2 年度子どもゆめ基金助成活動

■予算:148 万円

4.「すべての人がダンスと出会う」機会を創る、コミュニティダンス

コミュニティダンスのすすめ

— Community Dance in Japan on web (CDJ-web)

日本のコミュニティダンスのあらゆる情報を集約する、情報ポータルサイト。

コミュニティダンスに関わる個人・団体であればだれでも登録でき、自身の活動をこのサイトで告知することができます。コミュニティダンスの場を求めている方や、どこにどのような人材がいるか知りたい方のための情報検索、研究者の論文掲載など、コミュニティダンスに関わる方々の情報を集約し発信していきます。

<http://cdj.jcdn.org/> のアドレスにて、近日リニューアル OPEN します。

＜リニューアル後の CDJ-web のポイント＞

- ・コミュニティダンスに関わる個人・団体であれば誰でも登録でき、自身の活動を告知することができます。
- ・登録者は初回のみ ID と PW を入手いただく必要がありますが、その後は同じ ID と PW で公演やワークショップの登録を行えます。また、プロフィールやロゴ等を登録可能なほか、「この記事を書いた人」の「最近の記事」という表示で、登録者別の記事閲覧が可能です。
- ・全ての登録された情報は、地域別、活動分野別、公演またはワークショップなどの種別等での検索が可能です。
- ・登録者は、プロフィールやロゴ等を登録できます。
- ・登録者と別に、ファシリテーターを登録する機能があり、サイト訪問者が、ファシリテーター一覧の検索も可能に。
- ・LINE と連動した情報告知機能を搭載します。
- ・他に、JCDN のみ登録可能なページになりますが、インタビュー、関連する事業報告書、海外の事例(調査報告レポート)、研究論文 などの閲覧ページも設けます。

The screenshot displays the CDJ-web homepage. At the top, there's a header with the site's name and a search bar. Below this, a large banner features a photo of people dancing outdoors. To the right of the banner is a sidebar with navigation links: Home, 記事一覧 (Article List), About (with sub-links for Community Dance, JCDN, Q&A, etc.), Event (with sub-links for Performance, Workshop, etc.), Archive, Interview, and a Registration Form. The main content area is divided into several sections: 'コミュニティダンスのすすめ' (Introduction to Community Dance), 'ネットワークイングイベント2019ボーダーを超える' (Network Event 2019: Crossing Borders), '宝ヶ池・子どもの楽園で、踊ろう！ダンスワークショップ＆ショーイング' (Dance Workshop & Show in Takaguchi Children's Paradise), and 'こちかぜキッズダンス2019ダンス&美術ワークショップ' (Kochikaze Kids Dance 2019 Dance & Art Workshop). Each section includes a photo, a title, and a brief description of the event or initiative.

■サイト製作(リニューアル): creative unit DOR ■担当 神前

■令和2年度 文化芸術活動の継続支援事業、令和2年度京都府地域交響プロジェクト交付金 団体活動支援枠
■予算:130万円

5. 子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力を育む、創造的なダンス教育の普及

令和2年度文化庁「文化芸術による子供育成総合事業ーコミュニケーション能力向上事業ー」NPO 法人提案型

からだを使ったコミュニケーションや創作方法である“ダンス”を通じて、児童生徒の創造力・想像力・コミュニケーション力の向上を目的に、アーティストが学校へ出向いて行うワークショップをコーディネートする。令和2年(2020年)度は、前年度に同じ大阪府堺市・沖縄県・滋賀県大津市の3地域 計8校で実施予定のところ、新型コロナのため2校が中止となったほか、1校はオンライン授業に切り替えて実施した。 ■コーディネーター: 神前(JCDN)

<実施内容> ※中止された2校を省く

実施月 日	市区 町村	実施校 (対象児童生徒数)	派遣芸術 家氏名	実施内容
9月24・ 25・29日	大阪府 堺市	堺市立八上小学校 (2年生3クラス)	田中幸恵	2年生の個々の表現力を育む事に的を絞り、自分なりの表現にチャレンジする。授業は1クラスごとに実施し、クラスのごとの進捗に合わせて様子を見ながら進行。どのクラスも、最後は一人ずつ自分の名前をモチーフにソロダンスを発表。
9月30・ 10月9 日・11月 6日・12 日	大阪府 堺市	堺市立原山ひかり小学 校 (5・6年生各2クラス 143名)	東野祥子	11月の体育参観で発表する作品作りに取り組む。グループごとの創作と学年ごとの全員で踊るリズムダンスシーン両方に取り組んだ。1-2回目は5,6年生それぞれ分かれてワークを実施し3-4回目に合同練習も行った。また、アーティストと教員の連携授業を取り入れ、担任教員がアーティストの提供する素材を元に、各クラスグループごとの創作をナビゲート。それらのパーツを組合せてアーティストが運動会の演目を構成し発表した。
10月30 日・3月 4日	大阪府 堺市	堺市立大仙西小学校 (5年生22名、 6年生16名)	市川まや	コロナの影響で計5回の予定が2回に縮小。コミュニケーション力や想像力を育くむことを目的とし学年ごとに実施。自分自身や他人の身体に向き合い、身体がどんなふうに動くかを知り、そこから創作を体験する。最後にミニショーイングの時間を設けた。
11月11 日-13日	沖縄 県	伊良部島小中学校 (小学3年生20名と 中学1年生34名)	マニシア	小学3年生と中学1年生の合同授業を3日連続で行った。場所は中学校の体育館。異学年合同授業の狙いは、ダンスの特性を活かして、発達段階の異なる異質な学習集団での取り組みにより互いが学び合いながら育つ事。最終日にはグループごとの発表を行った。
12月22 日-24日	沖縄 県	南城市立知念中学校 (中学1年生2クラス 47名)	合田緑・ 得居幸	3日連続の授業。学年のまとまりをつくるきっかけにという先生の希望から、初日のみ1クラス×50分、2・3日目は2クラス合同で100分とした。最終日に発表の時間を設けた。
2月2 日・9日	大津 市	滋賀大学教育学部附 属特別支援学校 (小学部全17名)	北村成美	継続3年目の取り組み。コロナのため、初めてオンライン授業を試みた。子どもたちには、事前にアーティストが用意したビデオレターで予習を行ってもらった。皆が活動する部屋にいられない子供のため、廊下や別の部屋にもアーティストが踊る zoom カメラを設置したほか、各部屋の様子を撮影した映像をいただいて編集し、子どもたち、先生方に見ていただいた。

■令和2年度「文化芸術による子供育成総合事業ーコミュニケーション能力向上事業ー」(文化庁)

■予算: 299万円(予算360万のうち、実施しなかった学校分を返金)

＜児童生徒の様子、具体的な変化、この事業に期待する事など。振り返りの教員感想から＞ 3校抜粋

◎堺市立八上小学校(大阪府) アーティスト:田中幸恵

初日、1クラスごとに授業を行ったところ、クラスごとに雰囲気は全く違うため、各クラスの個性に合わせてその後の授業を進めることにした。小学2年生には難しい「名前ダンス」も、つかみや反応が早かったため、最終日は一人一人の表現の一つの成果につながるよう、名前ダンスの発表を行うことにした。

2日目は、1日目に落ち着いていたクラスが集中力がなくなったり、逆に進みが心配だったクラスが思っていたよりずっとワークに入れたりと波乱の展開。子どもたちとの距離の取り方を意識しつつ進めた。

最終日は、今までのワークを深めながら、名前ダンスの発表につなげた。各クラス、それぞれの子の個性が光るダンスを見ることができた。また、子どもたちも前向きな言葉が増えたり、子どもたち同士のコミュニケーションができていた。最終日の先生の感想「子どもたちの成長を見れたことはもちろん、自分が子どもたち側に立って一緒に参加したことで新たな気づきがあった」

◎南城市知念中学校(沖縄県) アーティスト:合田緑・得居幸

昨年度まで、宮古島市立伊良部島中学校の体育担当で2年間この事業を経験された先生が、本島の中学校に転任され、学年のまとまりをつくるきっかけにとっても良い事業であるとして申込をいただいた。

初日1クラス目は、アーティストが用意したワークが馴染まず、集中力に欠けらばらした印象であったが、その様子をみたアーティストがワークの内容や声のかけ方などを変更。生徒の実態に応じて計画を練ったことで、子どもたちの変容が大きく見られた。2日目以降はキラキラした目で全身で楽しむ生徒の様子が印象に残っている。

終了後、体育の担当教員からは、「ほとんどの生徒が、授業前のアンケートでダンスは「恥ずかしい」「やりたくない」「楽しくない」と答えていたが、終了後のアンケートでは、劇的に変化した。」と伺った。

「ダンスの授業は、発達段階により、学年が上がるにつれて指導がとても難しくなります。授業をやる前から何かアレルギー反応のようなところからスタートします。この授業を通して、ダンスの特性を味わい、ダンスに親しみを持ってもらえたと強く感じます。生徒の成長や変容も肌で感じることができました。さらに、ダンスの指導法を講師・コーディネーターとのフィードバックで勉強する事ができ、指導者としてもたいへん満足しています。この事業をとおして、指導における実践力の向上につなげ、生徒ひとりひとりが楽しいと思えるダンスの授業作りに励んでいきます。」という熱意こもる感想を寄せていただいた。

◎滋賀大学教育学部附属特別支援学校(滋賀県大津市) アーティスト:北村成美

継続3年目の実施。コロナでオンライン授業に切り替える事となり、アーティストからオンラインならではの魅力やメリットを生かした授業計画を提案いただいた。まず、初めてのオンラインという状況に児童らが見通しが持てるように、アーティストが事前にビデオレターを用意。また、メインの会場となる多目的室に入ることが難しい児童にも参加してもらえよう、それぞれが落ち着く場所(メイン含め最大4か所)にモニタを設置。さらに、各部屋にzoom画面を移すモニタと別に、児童の様子を撮影するカメラを設置してもらった。Zoomの映像記録と、各部屋の記録映像からいいところを取り出して編集し1本の記録映像を作成。これを参加した児童と教員に見てもらった。

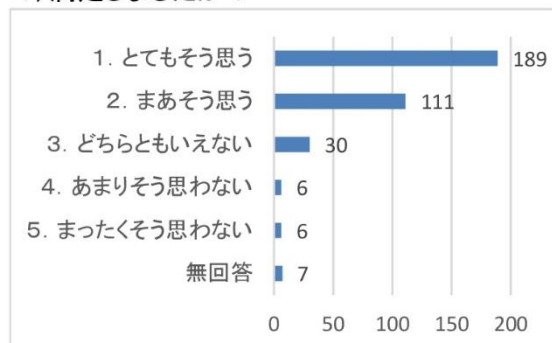
実際に、これまでの積み重ねがあったため、2年生以上の児童らはアーティストとの再会を楽しみにしていた。初回は、大きなスクリーンにはしゃぐ姿、画面越しでとまどう姿、よりリラックスして参加する姿などが見られた。2回目には、カメラが複数ある事に気づき、好きな場所に移動して参加するなど、運動量も多くなった。記録映像からは、「このシーンでこんな動きをしていたの」という発見が多々あり、更に、画面越しにアーティストに思いを伝えようとする姿を確認するなど、私たちにも想像以上の発見があった。

今回製作した映像は、今後先生方の研修等で役立ててもらうほか、JCDNの資料としても活用していきたい。

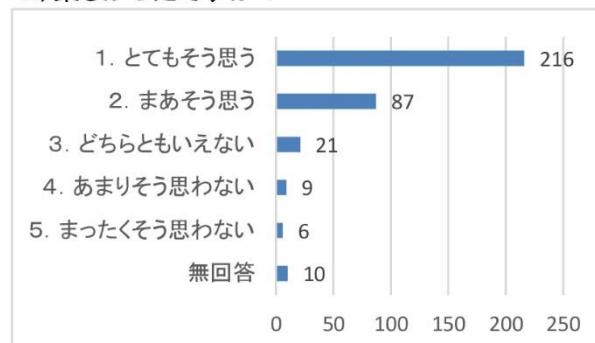
【児童アンケート】 回収 349枚（男182名、女161名、無回答6名/合計6校中回収できたもの）

質問 ダンスのワークショップに参加してみて、どうでしたか？

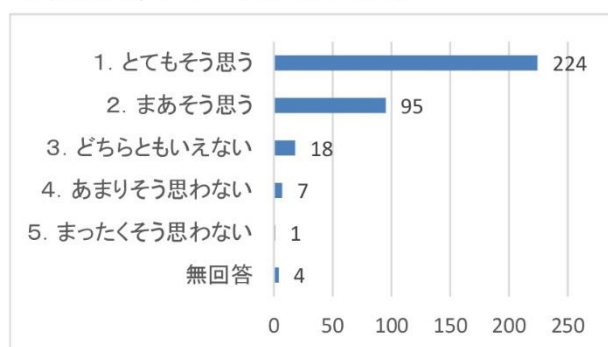
1)満足しましたか？



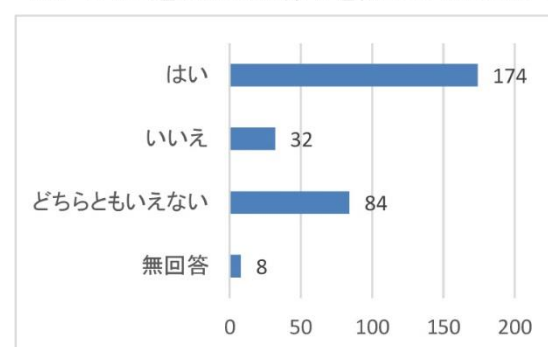
2)楽しかったですか？



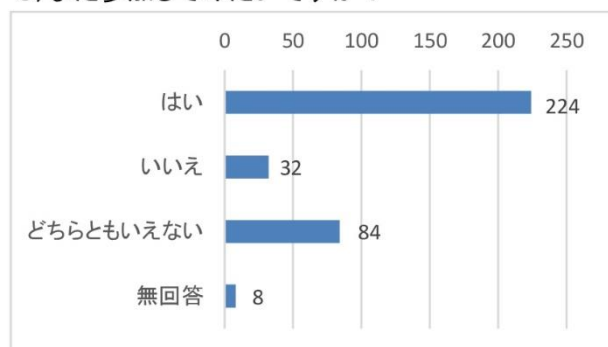
3)説明はわかりやすかったですか？



4)いつもと違う友達の様子を見つけましたか？



5)また参加してみたいですか？



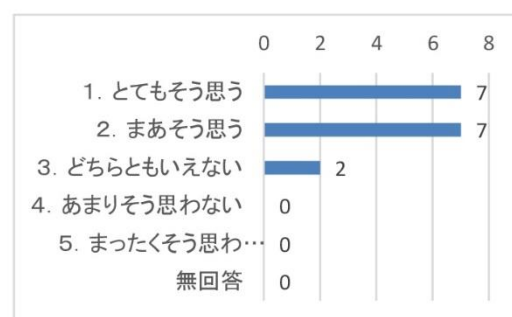
【教員アンケート】 回収 16枚（計6校）

質問① 児童の様子について、下記の項目に1～5段階でお答えください。

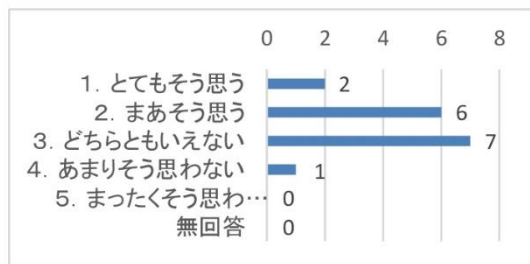
1)子供たちの豊かな自己表現がみられた。



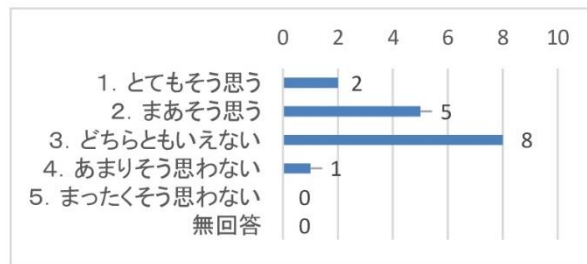
2)普段に比べて、子どもたちが自発的に参加していた。



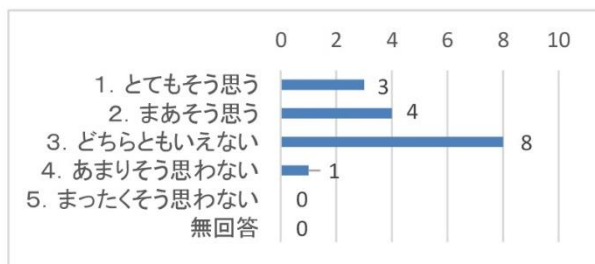
3) 子供たちが、自分の行動や発言に自信を持つようになった。



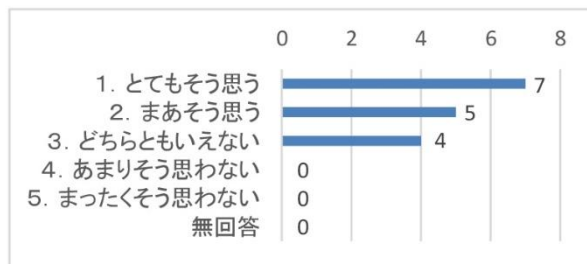
4) クラスの中で、子どもたちの関係性が変化した。



5) 以前より協調性が生まれた。

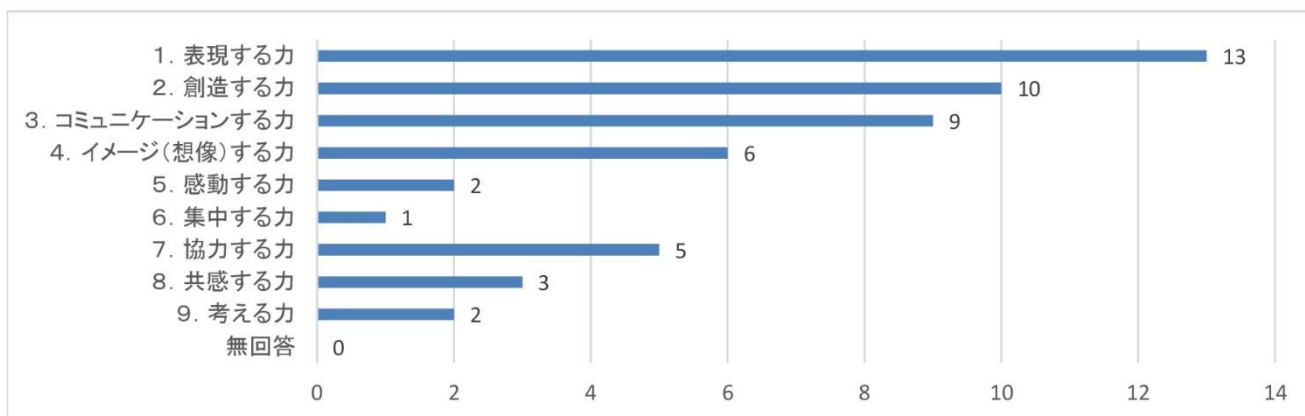


6) 今まで知らなかった友達の良さや特徴を発見した。



質問② このワークショップが、児童生徒のどのような能力を育むことに効果が高いと思いましたか？

(下記の中から当てはまる上位三つに○をつけてください)

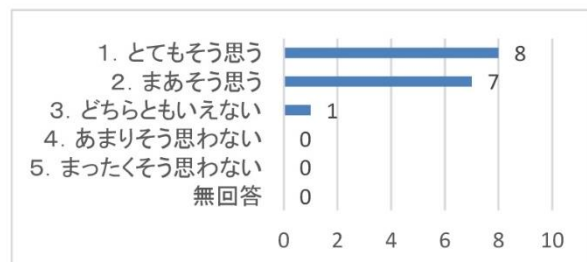


質問③ 先生ご自身について、下記の項目に1～5段階でお答えください。

1) ダンスアーティストの考えやワークショップ方法を知ること、普段の授業に活かすためのヒントを得ることができた。



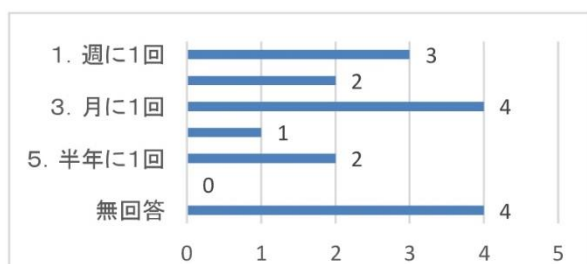
2) いままで知らなかった子供たちの新たな面を発見した。



3) 今後のクラス運営に役に立つことを得た。



4) どのくらいの頻度で行えば定着すると思いますか。



京都府/令和2年度 文化を未来に伝える次世代育み事業

「学校・アート・出会いプロジェクト」

京都府文化芸術課による、アーティストが学校へ出向いて体験授業を行う事業。ダンスの他に様々な分野のアーティスト・団体が派遣可能アーティスト/コーディネーターとして登録されている。

JCDNでは、文化庁のコミュニケーション事業と同じく、からだを使ったコミュニケーションや創作方法である“ダンス”を通じて、児童生徒の創造力・想像力・コミュニケーション力の向上を目的に、アーティストによるダンス体験授業(ワークショップ)をコーディネートしている。

2020年度は、以下の2校から実施希望があり、ワークショップを行った。 ■コーディネーター: 神前・榊原

<2020年度実施校>

【1】京都府立向日が丘支援学校

1. 日程・場所

(1)実施日 9月2日(A)、9日(B)、16日(A)、23日(B)、30日、10月14日(水) 全6回

(2)教員対象の事前学習 8月5日(水)14時～15時 ※生徒に行うワークを体験した後、Q&Aの時間

2. 対象 中学部1年生 19名(男15、女4) ※うち車椅子の生徒3名

3. 講師 アーティスト: 鈴木英理子 アシスタント: 高橋芽生子、野田まどか、今村達紀

対象は中学部1年生19名と数は少ないものの、障がいの特性や状態が幅広い事、体育館が夏場は暑すぎるため、活動場所を冷房のきくプレイルームに移した。活動場所の広さに応じて、19名を2グループに分け、それぞれ3回ずつ実施した(最終日のみ両グループが一緒に体育館で活動した)。

最初に講師による自己紹介、ダンス披露から、子どもたちの反応がとても良く、生徒によって障がいの程度や特性が異なるが、回を重ねるごとにそれぞれの子がそれぞれの楽しみ方をしていった。ワークの中で、自然と子どもたち同士でフォローしあったり、なかなかずっと教室にいられない子がワークの時間ほとんどみんなと一緒にいることができた。自由にひとりの子が弾き出したピアノの音とその子の発声がワークと奇跡的コラボとなったりと、様々なうれしいハプニングと発見の多いワークショップになった。

【2】京都府立聾学校舞鶴分校

1. 日程・場所

(1)実施日 2020年12月11日(金) 全1回(45分×2時限)

(2)事前打合せ・体験日 2020年7月27日(月)13:30-

※音楽(太鼓演奏)の授業を見学後、15分ほどの時間をいただき、ダンス体験をしてもらった。

2. 対象 小学部1-6年生 8名(他に、前半のみ幼児部の3歳児2名が参加)

3. 講師 アーティスト: 田中幸恵 アシスタント: 高橋芽生子、松木萌

事前打合せにて、子どもの様子を伺った際、完全に聴こえない子はいないが、かなり聴こえにくい子が数名いる事、表現だけではなく、日常生活の中で獲得してきた言葉が少ない子どもたちで、読書量にも差がある事、いろんな表現方法が難しい事を伺う。実施回数が1回90分のみだったため、事前打合せ日に少しでも時間をいただき、みんなで踊れる簡単なダンスを紹介し、事前に子どもとアーティストの出会いの時間を取ることにした。

ワークショップは前半にゲーム的なものや体ほぐし、後半は、つくる・見合う要素のものを行っていただいた。もともと表現が苦手な子や運動が苦手な子などいたようだが、どの子もそんな様子はなく、とても楽しんでチャレンジしていた。自分の身体がどんな使い方ができるか、表現する楽しさが伝わったワークショップだった。

■令和2年度 文化を未来に伝える次世代育み事業「学校・アート・出会いプロジェクト」(京都府)

■予算: 58万5千円(2校分)

6. コンテンポラリーダンスを用いた、社会的課題への取組

創造的なダンスによる、子どもはぐくみ事業

(旧「創造的なダンスを用いた、児童青少年の自己肯定感向上プロジェクト」)

2018年-2019年に行った「創造的なダンスを用いた、児童青少年の自己肯定感向上プロジェクト」の体験活動実施先でのワークショップ活動のみを継続。本事業では、何かしらの理由で創造的なダンスに出会うことが難しい子どもたちがいる場所へ体験活動の場を拡げる機会とする。

<体験活動>

【1】平安養育院ダンスワークショップ 2020 (社会福祉法人平安養育院 児童養護施設平安養育院と共催)

児童養護施設平安養育院でのダンスの取り組みは、継続3年目の実施となる。当初は、毎年11月に実施される年に1回施設を地域に開放する「こどもまつり」のステージで、ワークショップで取り組んできたことの成果を発表する予定であったが、新型コロナの影響を受け「こどもまつり」の中止に伴い、成果発表がなくなった。代わりに、全10回のワークショップを行い、子どもの成長の記録を映像ドキュメントにする内容に変更。ただ、全10回のワークショップも、1月の緊急事態宣言を受け2回分が中止・延期となった。最終回の3月18日には、これまでの取組を編集した映像を、アーティスト、子どもたち、施設の職員とともに鑑賞し、感想を共有する場を設けた。

ダンスの取組も3年目を迎え、子どもたちにも良い変化をもたらしている。最終回の振り返りの場では、初年度とは見違えるほどの集中力をみせ、感想を発表する際も堂々と発言していた。また、ダンスの参加者の1人が、昨年度に引き続き、東山青少年活動センターのダンスプログラムに参加し、ダンスを通じて施設外での友好を深めることができている。なお、映像ドキュメントは、東山区内の地域の代表者を招いた成果報告・勉強会でもお披露目した。

◎期間:2020年9月から翌3月まで ※計8回のワークショップ

※1回のワーク時間は60分-90分(グループごと)。アーティスト・スタッフは、前後に事前打合・振り返りを行う。

※3回目以降は、美術のワークショップも並行して行った。

◎対象/平安養育院で生活している小学1年生—高校生 延べ10人

◎メインアーティスト:康本雅子、市川まや(ダンス)/出川晋(美術)

◎アシスタント:竹ち代穂也 ◎コーディネーター:神前沙織・榊原愛(JCDN)

【2】母子生活支援施設Aダンスワークショップ2020

母子生活支援施設Aは、18歳未満の子どもを養育している母子家庭、またはさまざまな事情で離婚届ができていないなどの母と子が利用できる児童福祉施設で、DVなどの深刻な状況に置かれた母子を一時的に保護するシェルターでもある。施設としては、身体を動かすことによるプラスの要素に着目しており、継続してプロのダンスのアーティストに関わってもらう機会を望んでおられた。

昨年度からの継続で実施回数を増やし、更に2月の舞台公演での発表を目指して計10回の活動を行う予定であったが、舞台公演がなくなり、回数も10月—12月の計5回のみとなった。所属する子どもの入れ替わりもあり、毎回の様子が違うなど、いろいろな事はあれど、施設スタッフからは子どもにとってこのダンスは表現や自分自身が否定されない貴重な場として受け入れていただけており、今後も継続して様子を見ていきたい。

◎期間:2020年10月から翌1月まで ※計5回のワークショップ

※1回のワーク時間は60分。アーティスト・スタッフは、前後に事前打合・振り返りを行う。

◎対象/母子生活支援施設Aで生活している1-6年生の子どもたち 延べ10人

◎メインアーティスト:セレノグラフィカ(隅地茉歩・阿比留修一)

◎サポートアーティスト:花沙、鈴木英理子 ◎コーディネーター:神前沙織(JCDN)、鈴木英理子

■担当:神前・榊原 ■令和2年度子どもゆめ基金助成活動 ■予算:70万円

7.その他、講習・政策提言・アドバイザー等

・城崎国際アートセンター アドバイザー(佐東)

アートセンターの企画段階から関わり、現在は、ダンス部門のアドバイザーを担当する。

・令和2年度公共ホール現代ダンス活性化事業(神前)

(一社)地域創造主催の「ダン活」事業において、コーディネーターを担当。

担当地域:(12月)福岡県宗像市、(2月)沖縄県浦添市(R4年度に延期)

Ⅱ. 会 員 部 門

1. コンテンポラリーダンスに関わる情報の発信

JCDN 会員サービス等

<JCDN 会員の種類と対象>

①アクティブ会員(個人/団体/U25) 個人:一口 5,000 円(U25 3,000 円)／団体:一口 10,000 円

※法人格を持たないカンパニー等は個人で入会可。

対象:JCDN の目的に賛同し、活動を推進することを目指すアーティスト・プロデューサー・評論家・研究者・ライター・スペース・ホール・美術館・企業・財団・自治体・大学・NPO などの個人・団体

②サポート会員(個人/団体) 個人:一口 10,000 円／団体:一口 20,000 円

対象:JCDN の事業を賛助・支援する個人・団体

③ダンスコミュニティ会員(個人のみ) 個人:一口 3,000 円

対象:JCDN の活動に共感する個人。

ダンスの情報が得られることによって、ダンスを身近なものとし、楽しむ為の機会を増やします。

<2020 年度 JCDN 会員数> 合計 122 名/組

【現在有効期限会員】 アクティブ個人 70 名、団体 20 組/サポート個人 3 名、団体 1 組/ダンスコミュニティ個人 10 名

【休会会員】(最長 2 年間) アクティブ個人 7 名、団体 1 組 /ダンスコミュニティ個人 2 名

※そのほか、JCDN 役員・スタッフ等(過去も含む) 8 組

JCDN 会員サービスについて

アクティブ・サポート・ダンスコミュニティ会員それぞれに、ダンスを社会に広める為の様々な支援サービスを行っています。特に、JCDN アクティブ会員対象のサービスはサポートを充実させています。

※JCDN ダンスリザーブ オンラインチケット予約システムは、IT 技術の進歩により様々な既存の予約システムがあるため、2019 年度の会員更新時をもってサービスを廃止する事と致しました。長い間ありがとうございました。

	アクティブ	サポート	コミュニティ
オンライン ダンス・ミーティングの場のセッティング	○	○	
オンライン 月 1 ダンスミーティング	○	○	
JCDN メールマガジンの配信 (月 1 回)	○	○	○
JCDN メールマガジンへの投稿 (月 1 回)	○	○	
公演・ワークショップ情報の送付 (DM)	○	○	○
JCDN 主催事業・関連事業の割引、及び会員主催のダンス公演等の割引	○	○	○
JCDN 総会 (年 1 回) への参加資格	○	○	
主催事業の報告書等の送付	○	○	○
JCDNweb「MEMBERS」ページでの活動紹介★	○	○	
JCDNweb「NEWS」ページでの公演、ワークショップ等の活動情報掲載 ★	○	○	
サポート会員からの企画や JCDN に対しての提案などを話し合う機会を設ける		○	
DM 同封サービス (無料/年 2-3 回程度/不定期) ★	○		
助成金情報などの提供、各活動に必要な情報の提供や相談など ★	○		

(★=詳細は、会員更新・新規申込時にご案内しておりますが、随時、遠慮なくご連絡ください。)

■会員専用メールアドレス : jcdnmembership@yahoo.co.jp ■担当: 今村